

平成30年第1回
高鍋町議会定例会

施政方針

高鍋町長 黒木敏之

2008年のリーマンショックから10年を経て、世界経済は、アメリカ・トランプ大統領政権の保護主義政策、イギリスのEU離脱、低金利政策、仮想通貨、北朝鮮問題等、様々な課題やリスクを内包しながらも、中国、アメリカ経済を中心に成長基調にあり、日本経済も、アベノミクスによる金融緩和、円安、株高を背景に、外需型輸出企業の業績が好調に推移し、GDP（国内総生産）は低い伸び率ながら28年ぶりに8期連続の成長を遂げています。

この経済成長は、外需型の輸出に偏ったものであり、地方では実感を伴わない経済成長ではありますが、2020年の東京オリンピックまでは確実に続くと予想されています。

果たして、目まぐるしく変化する世界情勢の中、思惑どおり日本経済の安定成長は続くのでしょうか。また、地方都市、地方に生きる者にその恩恵はあるのでしょうか。私たちは、地方にあればこそ、時代を読み、未来を想定しながら、打つ手を考え、高鍋町のまちづくり戦略を構築していかねばならないと考えます。

2018年、今、時代は大変革期の真ただ中にあります。

人口減少、超高齢化社会、東京一極集中、地方創生、働き方改革、様々な改革や変化が求められる時代にあって、科学技術の革新は止まることを知らず、社会は急速に変化を遂げ続けています。今、時代はまさに第4次産業革命の真ただ中、AI、IoT、EV、フィンテック等、あらゆるモノがデジタル化され、インターネットにつながり、社会基盤、産業構造、世界経済を激変させ、私たちの生活や仕事、価値観をも大きく変えようとしています。

本年1月に開催された世界経済フォーラム「ダボス会議」でのカナダのトルドー首相の発言は象徴的でした。

「今ほど変化のペースが速い時代は過去になかった。だが今後、今ほど変化が遅い時代も二度とこないだろう」

自然科学者、チャールズ・ダーウィンは著書「種の起源」の中で「最も強い者が生き残るのではなく、また最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」と述べています。

急激な大変革期の真ただ中であって、私たちは、さらに力強く生きていくために、さらなる変化、改革、革新していくことを恐れ怠るわけにはいきません。

昨年、高鍋町長就任以来、「豊かで美しい、歴史と文教の城下町の再生」をビジョンとし、「農畜産業が豊かになってこそ、商工業は潤い、まちは元気になる」という財政基盤の考えの下、「産業振興」「福祉・子育て・教育」「住環境の整備」の3つをまちづくりの柱とし、「改革の努力を積み重ねていく風土の中で、優れた人財が育ち、若者がチャレンジできて、やりがいのある雇用の場があり、高齢者が健康で生き活きと過ごせて、子育て・教育に最適な施設と福祉環境を備えた、誰もが住みたいと思う、豊かで美しい城下まち」を目指す方針をお伝えし、高鍋町の改革、新たなまちづくりに取り組み始めました。

この1年を振り返りますと、町民の皆様のお力添え、町議会議員の皆様のご支援、職員の努力もあり、企業誘致、ふるさと納税25億円、中学生までの医療費の無償化、施設のネーミングライツ、鈴木馬左也シンポジウムの開催等、いくつかの成果を生み出すことができました。

特に、南九州大学高鍋キャンパス跡地に宮崎キャノン株式会社様の工場を誘致できたことは、大学跡地の問題が高鍋町最大の懸案でありましたただけに、良いスタートを切ることができたと考えます。

また、俵橋地区に株式会社デリーマーム様が、「ゴボチ」の製造工場と

共に高鍋町産の野菜や食品の販売場とレストランを併設した、観光拠点としての食と農の複合型施設、ママンマルシェーTAKANABEーを開設、本年8月には、南薩食鳥株式会社様が持田地区に工場を新設されます。

さらに、本年1月にはエムネクスト株式会社様、地場企業である餃子の馬渡様を企業立地奨励条例の指定事業者に決定したところでございます。指定事業者のそれぞれがオフィス、新工場を新設される等、最重要課題である人口減少対策で最も求められている「新産業創出」「雇用の場の創出」が実現されたことにより高鍋町に勢いが生まれ始めたと考えます。

そして、平成30年度は、昨年ご提案した「10の達成すべき目標」の下、達成された項目と新たな課題を勘案し、さらに重点項目を具体的に取り上げ、短中長期的な計画を詳細に立案、実行し、皆様と共に、さらに大きな成果を創り出して行かねばなりません。

「達成すべき目標」

1、 農畜産業支援

農畜製品のブランド化及び6次産業化を促進

農畜製品の販売促進

J A児湯との連携促進

高鍋農業高校・農業大学校との連携促進

農業後継者・新規就農者の育成支援

家畜伝染病の防疫強化

2、 福祉の充実

石井十次先生生誕の地として「福祉のまち」の推進

子育て世代の生活と雇用の支援

児童・生徒の給食費・医療費の支援

放課後児童クラブ・子ども食堂等の児童支援

高齢者や障がい者が生き生きと暮らせるための支援

3、 企業誘致・雇用創出

企業誘致助成制度の拡充

積極的な企業誘致活動の推進

空き家・空き店舗を利用したレンタルオフィス、シェアオフィスの
推進

お試しオフィスによるワーク・イン・レジデンスの推進

誘致企業との意見交換会の開催

町民の職能教育支援

起業家の育成支援

4、 商工業支援

「ふるさと納税制度」を積極的に推進し、併せて地場産業、商工業
の発展を推進

商工業者・地場産業者との意見交換会の開催

時代に即した商店街の支援

空き店舗対策の推進

地場産品開発支援

地場産品の販売促進支援

後継者の育成支援

商工会議所との連携促進

5、 観光促進

飲食業を観光産業の柱として支援

飲食店のメニュー開発、商品開発、品質向上の支援

高鍋駅舎周辺及び蚊口海浜公園の整備促進

高鍋城址舞鶴公園の整備促進

持田古墳群と花守山の連携を図り、さらに西都原古墳群との連携による世界遺産登録推進

高鍋城灯籠まつり・キャベツ畑のひまわり祭り・サーフィン大会等に対する支援

アート・フェスティバルの開催推進

城下町の景観創り・古民家再生の推進

高鍋町の歴史・伝統芸能に関する支援

6、 文教のまちの再生・教育支援

高鍋高校と東・西中学校の中高一貫教育の仕組みづくりの推進

図書館の見直し

スポーツ・文化活動の支援

スポーツ施設の整備

7、 防災・環境整備・美しい高鍋づくり

防災対策、及び防災施設の建設促進

災害危険箇所等、未整備インフラの整備促進

竹鳩橋の整備促進

コンパクトで美しく機能性に満ちたまちづくりの推進

8、人口増加・定住支援

積極的な定住促進支援制度の導入

まちの魅力発信

9、町民の声を町政に反映する仕組みづくり

男女共同参画社会づくりの推進

情報共有や発信システムの改革

まちづくり提言講座の設置

10、役場の活性化

QC活動の導入

職員研修、人材育成の推進

町長表彰制度の導入

町民の皆様にも親しまれる役場づくりの推進

各課の明確な年度目標の設定

役場全体の年度目標を全職員で共有化

町長は、年1回、課長、課長補佐と個人面談を実施

笑顔、あいさつ、掃除の推進

美術館、歴史総合資料館、図書館、たかしんホール、井上商店スポ

ーツセンター、MASUDAスタジアム、家老屋敷、高鍋勤労者体

育センター、高鍋湿原等の指定管理者制度の推進

「重点項目」

- 福祉の充実
- 企業誘致
- 中高一貫の教育改革
- 農畜製品のブランド化、6次産業化
- 高鍋駅舎周辺及び蚊口海浜公園の再生
- 図書館の再生
- 「高鍋温泉めいりんの湯」の経営革新
- 道路の整備
- 町なか再生
- 起業家養成
- 観光イベントの充実
- 指定管理者制度の積極的な導入
- 町立「わかば保育園」のあり方検討
- 教育委員会の移転
- 社会福祉協議会との連携強化
- ふるさと納税のさらなる推進
- 城下町プロジェクトの設置
(歴史と文教の城下町の再生)
 - ・高鍋城址舞鶴公園の整備
 - ・街並み街路樹の整備
 - ・古民家再生
 - ・藩校明倫堂創設240年シンポジウム開催
 - ・持田古墳群と花守山との連携
 - ・その他、城下町再生への様々な取り組み

以上、急激に変化していく時代にあって、今すぐにやるべきこと、短期、中期、長期の目標を明確にし、大胆な改革をスピーディーに推し進めながら、「豊かで美しい、歴史と文教の城下町・たかなべの再生」に取り組んで参ります。誰もが暮らしたいと願う、豊かで美しい高鍋町を、子どもたちの未来のため、この町に生きる者の使命として、皆様方と共に、力を合わせ創っていかねばならないと考えます。

「善く戦う者、これを勢いに求めて人に責めず」

この言葉は、中国の戦略家・孫子が書き残した「孫子の兵法」の一節です。古来より、戦い上手な者は勢いによって勝利を求め、個々の人の力に頼らない。だからこそ人は勢いに従い、さらに力を発揮するという教えです。

まちづくりに「勢い」を創り出し、その「勢い」がさらに大きな「うねり」となりますよう皆様方の積極的なご支援ご協力をお願い申し上げ、平成30年度に臨む私の所信といたします。